

日吉台地下壕保存の会 会 報

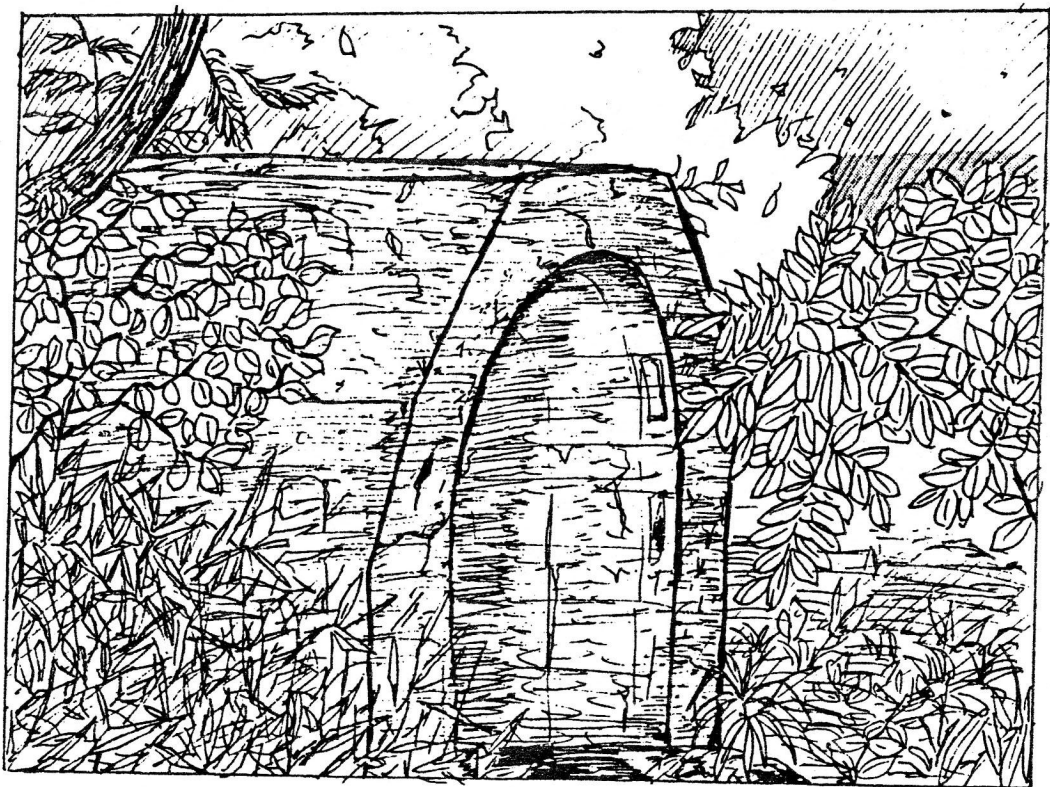
第24号

発行 日吉台地下壕保存の会
編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費) 一口千円で、一口以上
郵便振込(口座番号)横浜 5-74921
(加入者名)日吉台地下壕保存の会



通信隊の壕入口

岡上 そう画

目 次	ページ
第4回中国人・朝鮮人強制連行 強制労働について考える会 全国集会に参加して	2
水浸しの蟹ヶ谷地下壕に入って	2
久末の高射砲台を訪ねる	3

この小さな一歩から～韓国人 学生の地下壕見学記～	4、5
新連載日吉台地下壕 当時の関係者の思い出話	6
幹事会報告	7、8

第四回中国人・

朝鮮人強制連行
強制労働について
考える会
全国集会に参加
して

足立 英宣

七月三日から八月一日にかけて、奈良県信貴山で行われた、中国人・朝鮮人強制連行について考える会の全国集会に、日吉台地下壕保存の会代表の一人として参加させていただいた。

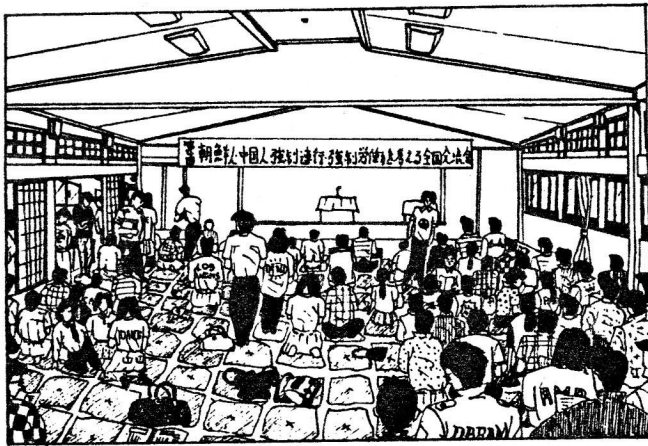
中国人・朝鮮人強制連行問題、従軍慰安婦問題等が国民の問題意識の中になかなか浸透せず、過去のものとして切り捨てられがちな現在、今回の体験は当時の時代を後世に正確に伝え残す為に貴重な体験であった。

「強制連行を学ぶ」など、

それぞれ具体的なテーマに焦点を絞った分科会では、日本に現存する第二次世界大戦中に作られた、施設関係の分科会に参加。実際に施設の保存に成功した団体の活動の経過報告や、地下壕での生活を

経験した人の団体の活動報告

等、全国規模で見た各保存会の活動の多様さに圧倒された。忙しい日々が続くが、少しでも今回の経験を日吉台地下壕の活動に貢献して行ければと思う。



於奈良県信貴山玉蔵院

水浸しの蟹ヶ谷
地下壕に入って

岡上 そう

七月一八日、我々は蟹ヶ谷通信隊地下壕を訪れた。鬱蒼とする森に四方を囲まれている場所に位置する壕の入口は、まるで侵入者を拒むかの様に、蔦に覆われ、木々に身をひそめていた。

壕内はとても狭く、一五〇位先まで車のタイヤが浮かべられてある。これは地下水の水位が高く、タイヤ無しではひざの辺まで浸ってしまいうからである。一五〇位進むと、堅い床になり真っ直ぐ立つことができた。大きな部屋が三つ横へ（左へ）向ってのびている。各々の部屋と部屋の間はコンクリートで仕切られて

おり、人が一人かがんで通れる程の四角い穴があいている。それぞれの部屋には、無線機器のあとや、碇子、ケーブルを幾つも通すため掘られた溝や、機械から有毒ガスが出るため、通気孔等があつて、部屋一つに対し一本の出入口がのびている。まるでEの字様の構造であつた。

隊員は相当いたらしいが、近所の人の話によると二人ずつの交代で作業をしていたらしい。湿気が多い壕で機械も人間も大変だったろうと思つた。

久末の吉岡射砲ムロを訪ねる

中沢 正子

蟹ヶ谷の地下壕見学会が解散した後、有志だけで近くにあつたと言われる戦時中の高射砲台跡を見学に行く。

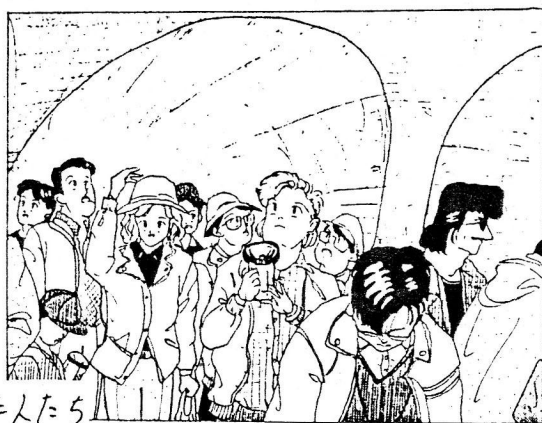
蟹ヶ谷バス停をあとに西に

進むこと一五分余り、のどかな丘陵地の畑があらわれる。遠足気分ですぐに歩を進めるが、それらしい物は現れない。

寺田先生の説明では「道の右側に木造の長屋のような建物があり、その前が畑になっていて、そこに高射砲台があつた。長屋の写真が撮つてある」と言うことである。

十字路で日吉駅西口行きのバスに出会う。高田町からきたバスらしい。先生は「こんなに遠くはなかった」と首をかしげながら引き返される。

畑の中に車を止めて降りてきた農家のお嫁さんに「この辺に戦時中の高射砲台跡が在ると聞いてきたのですが？」と尋ねると「もつと先のバスの道を真っ直ぐ行くと久末住宅があります。そのあたりです。今はもう何もありませんよ」と教えてくれた。

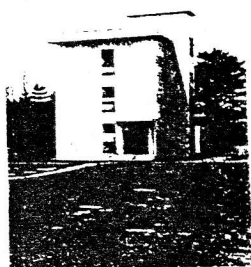


地下壕見学会に来た人々

またバスに出会ったところまで引き返し、更に進んで、今度は久末住宅の二階で洗濯物をとりこんでいる奥さんに尋ねると「高射砲？」と聞返し何も知らないと言う。住宅の裏に廻ると数人の人達が何かの準備をしているので、また尋ねると年配の奥さんが「ああ、ここですよ」とい

も簡単に答えてくれた。男性は「ええ！高射砲台があつたて？初めて聞くなあ」と驚いている。「きたない長屋のような建物（当時使用されていた）があつたそうですが」と言う「えーえーありましたよ。そこです」と新しい駐車場を指差した。道路の右側四階建てのアパートの前であつた。

遺跡が次々と消えていく話をよく聞くが、今日はその実例をまの当りにしたのである。先ずは何とか場所だけは確認できて何よりであつた。



長くて危ない壕の見学は、とても疲れはしたが、日本の緻密さ、戦争に対する粘り強い精神などを今更ながら感じつつ、私たちも私たちの力を育むために、強靱さをもっと伸ばさなければと思った。

朴 志淵 (大学生)

私たちは岩波書店の裏りある訪問を終えた後、第二次世界大戦の時、海軍が作った軍令部に向かった。軍令部は、地下トンネルの中に置かれた日本海軍の中樞神経だった。戦争の様相が悪化してきたので、情報の重要性を認識しなかった日本の海軍も、ついに現在の慶應大学のところに、海軍の本部、情報部を作ったという。

地下壕を作るまでは、指令部は戦艦の中にあった。今の慶應大学の場所、すなわち日吉には、いろいろと良い点があったが、その長所は、電波が入りやすい、既存の建物がコンクリートで作られていて、地下壕が掘りやすかったことだ。

しかし、ここ日吉の重要な点は、ここが海軍情報部があったことではなく、日本人と朝鮮人が強制徴用されて、トンネルを作ったということにある。日本の壕を掘った会社は、軍人と民間人を合わせて、3200名だったという。

このような暗鬱な韓日両国の歴史を考えながら、壕の中に入って行った。一寸先も見えないトンネルの中で、私たちは日本人は本当にたいしたものだった。それとともに、このようなトンネルの中で、どんなにたくさんの民衆がうめいていたのだろうか考えると、形容できない気分になった。

ごく少数の既得権層のために苦しむ、大多数の民衆のうめきは、この世のどこにでも生じることだと考えると、悲惨な気分だった。

足が泥にはまりながら行ってきた、日本海軍指令部の記憶は、私を進歩させた。

李 忠植 (学生)

私は、今日本で日本語の勉強をしている。

日本の大学で勉強をするために日本に来た。日本に来てからすでに5ヶ月になる。だからだいたい、日本がどんな国か、日本人はどんな人かをなんとなくわかってきた。

しかし、この度の見学をするまでは、まったく知らなかった事実、一人ではとうてい行くことのできない所に、行って見ることができた事は、私にとってよい機会だった。特に、韓国を理解しようと、関心をもっている日本の方たち、日本の学生たちとたくさん知り合えたので、とてもうれしく、私の日本での生活に大きな力になったと思う。

(中略) 日本政府は、日本の過去の歴史を、できるなら隠しておこうとしているようだ。慶應大学の地下に地下トンネルがあっても、慶應大学生は知らないようだし、地下トンネルが戦争当時政府が建設した施設なのに、今は個人が個人的に施設物を使用しており、内部もなんの管理もされずに放置されている状態なのを見た。

韓国ではしばしば、第2次世界大戦当時の戦争当事国だった、ドイツと日本の戦後の処理問題がどう違うかを比較する。ドイツが今も戦争犯罪者を処罰し、捜索しているのに対し、日本は戦後、10余名を裁判したことで終わりにしてしまった。ドイツはユダヤ人を虐殺したことを認め、収容所を公開しているのに対し、日本は戦時中に起こったすべてのことが、すべての人の記憶から忘れ去られることを願っているようだ。ドイツの戦後世代は、彼らの父母世代が戦争の時に何をしたかというのをよく知っているが、一方、日本の戦後世代はそうではない。日吉の地下トンネルを見て出てきた瞬間、このような事実を皮膚で感じる事ができた。

もう一つは、日本の多くの方たちが、正しいことのために一生懸命に努力していることがわかった。日本のためばかりでなく、他の国の正義のためにも、みなさんが集まって、支援を惜しまない姿を見て、多くのことを感じた。

この小さな一歩から

「第二世代」日本滞在報告書(2.19-2.24)

「民主化運動の第二世代を迎える会」発行

韓国人学生の地下壕見学記

(7) 日本軍地下壕

日時：2月22日(月)2時～

講師：慶應高校教諭 寺田 貞治さん

金 容奎(大学生)

この壕は第二次世界大戦当時、不利な戦況を解決するために日本海軍が作った。1944年6.7月頃、掘り始め、1944年9月末には、慶應大学の寄宿舍の下までできた。

この壕に一番初めに入ってきた部隊は、1944年2.3月頃、海軍軍令部の情報部、すなわちもっとも大きな役割を果たしている部隊だった。ここに、世界各国の軍事情報が集まった。この当時、日本海軍情報部は、あまり重要視されていなかったが、急に増員したためここに引越してきた。

情報部の次に、この地下壕に入ってきた部隊は、連合艦隊の中でも、もっとも大きな役割をした司令部だった。

参考までに、この壕のある地域は日吉といい、ここを地下壕に選択した理由は、

①電波の受信状態が非常に良い。②既存のしっかりした建物があり、丘の麓から地下壕が掘りやすい。③東京や海軍基地に近くて、連絡がとりやすいからだ。

司令部は、元来、巡洋艦内にあったが、狭くて不便であり、そこから指令を発するには、電波が弱く、撃沈されれば、全部いっしょに死んでしまうということで、ここに移動した。

この壕を掘るために、1944年8月15日、1500名の部隊が設置され、徴用された人たちは、たいてい40才代位だった。

部隊の人たちは、軍人と民間人を合わせて、3200名で、壕を掘った。

その当時、会計を担当していた、主計長の話によれば、徴用された人のうち、朝鮮人は、700名位だったという。その当時、朝鮮人は日本語をほとんどできなかったもので、ほぼ韓半島から連れてこられたと、推測できる。彼らは労働に比べて、食べ物の量が少なかったという。朝鮮人は、もっとも危険な所で作業をしていたので、事故で死んだ朝鮮人もいたらしい。

ここから指令した1944年10月のレイテ決戦は、日本とマッカーサーの連合軍の戦闘で、日本艦隊74隻中、64隻が沈没した。その後、指令部は、沖縄作戦、特攻隊、戦艦大和の出撃などを指令した。

1945年2月初めから3月末、海軍人事局や経理局が、今の慶應高校に入ってきた。東京大空襲(1945.3.10)の後、海軍本部が、この壕に引越してきた。私たちが見学した壕は、たいへん重要な基地だったので、日吉地区は、しばしば空襲を受けた。(1945年春に、大きな空襲が3回、小さい空襲はほとんど毎日だった。)その壕の周辺にあった家も、空襲によってみな焼けてしまった。

戦争が終わった後、ここは米軍が進駐してきて、1949年まで、占領していた。そして、この日吉地区には、軍事的遺跡が、まだ多く残っているようだ。

私たちが見学した壕は、コンクリートで堅固に作られた、たいへん科学的に設計された壕だった。例をあげれば、地面にある水路とか、湿気や換気のために、ところどころに開けられている小さな穴に、壕を作るための日本人の努力が見られた。

そして、この壕を作るとき、強制徴用された朝鮮人たちが、どんなにつらい労働をしていたのだらうと思った。

今は、その時のひどい状況や、戦争の廃墟が、すっかりなくなり、とても静かできいなかで、あらためて戦争は無くさなければという気持ちを持った。

新連載

日吉・日吉地下壕

当時時の関係者
の思い出山話

地下壕の成立、建設、利用の事情について、当時関係された方々の証言を、順を追って載せてゆきたいと思います。投書や、聞き書きなどさまざまですが、忘れられない事実が語られて貴重な記録となっています。

中島 親孝氏の話

(ききとて：寺田貞治)

司令部が陸に上ることに決ったのは昭和十九年七月末
それでは、連合艦隊司令部の日吉移転前後のことからはじめましょう。

最初にご登場願うのは当時連合艦隊司令部の通信・情報
の参謀をされていた中島親孝氏です。

であった。

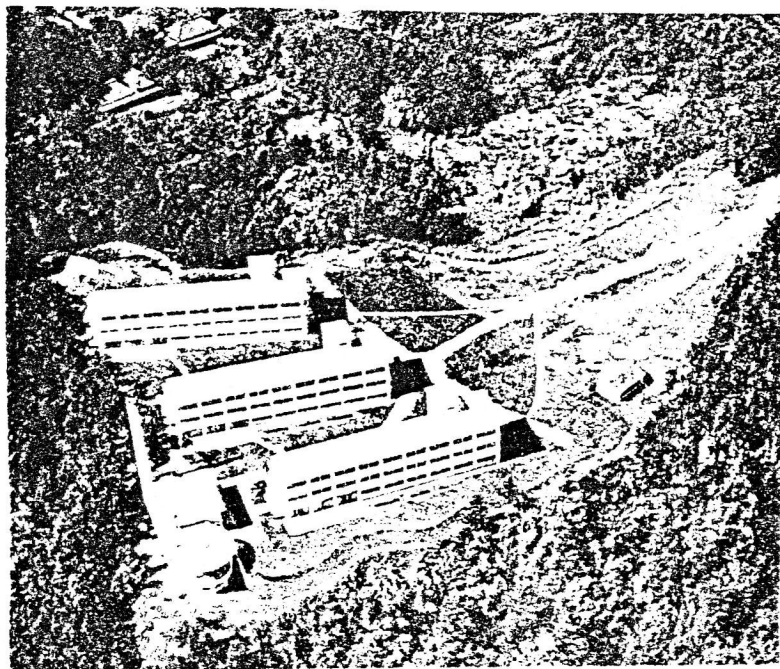
司令部の候補地として、

(イ) 大倉山・精神文化研究

所(ロ) 玉川学園(ハ) 横浜

航空隊(ニ) 日吉・慶応大学

の四ヶ所が挙げられた。大倉山



日吉寄宿舍昭和12年～上空から3寮を望む
慶応義塾大学日吉寮開設五十周年記念誌より

は狭いので問題外、玉川学園は近くに陸軍のリーダー研究所があり、通信の関係でため、横浜航空隊は敵にねらわれ易いのでだめとなった。

親戚に海軍主計中尉の笹尾

政信氏がおり、海軍経理学校昭和十九年卒で、鹿屋航空隊に行ったが、慶応大学在学中の昭和一五年に彼に誘われて慶応の運動会に行ったとき、

いい学生寮があるなと思った。

非常時に至って、この寮のことを思い出し、司令部で仕事を手伝ってくれている慶応大学文科卒で予備士官の中尉前田正(後に改名して晃利)氏にこの寮のことを「司令部が移ってもいい所か」ときくと、「いい所ですよ」と言うので、氏に日吉の慶応の土地、建物などの図面を書いてもらい、司令部の人達に日吉移転を宣伝し、日吉に司令部が来る基礎をつくったのです。この時自分は巡洋艦「大淀」に乗っていて盲腸を患い、参謀室で寝ながら仕事をしておった次第です。

(生協ニュース教職員版第四五号より抜粋転載)

臨時(第三回)

松軒車事△△報生口

六月二十八日一七時半

藤山記念館中会議室

報告事項

一、六月一二日慶応生協学生
委員会主催地下壕見学会二
八名参加

二、六月一五日港北区民会議
運営委員会にて地下壕パン
フレット等配布

三、六月一七日平和と文化を
守会地下壕見学一二名余参
加

四、六月二五日白井ゼミ「太
平洋戦争と慶応義塾」にて
日吉台地下壕について寺田
が講義四〇名余参加

五、八月二二日豊島区郷土資
料館主催地下壕見学会予定
議事

一、七月三十一日八月一日・
奈良にて開催の第四回中国
人朝鮮人強制連行・強制労

働を考える全国集会参加に
ついて

*寺田、足立、岡上が参加
二、第二回戦争展の開催につ
いて

*会場の確保 横浜か平和館
か

*展示物の内容

*七月一四日に法政高の渡辺
先生等と第一回打合せ会を
持つ

三、市、県、慶応への働きか
けについて

*夏休み中に鮫島会長、寺田
事務局長が慶応の理事に会
う機会をつくる

*市の「横浜プランの見直し」
に組入れてもらっては?

四、会報二四号について
九月発行。蟹ヶ谷見学会、
奈良の全国集会参加の感想
等

五、カンボジア・ボランティア
の医師・看護婦夫妻の話を
聞いては?

(七月二一日日吉地区センタ
ーに木村真人・千佳夫妻をお
招きして話を伺った)

第四回松軒車事△△報生口

七月一四日一七時半

日吉地区センター

報告事項

一、六月二九日港北区民会議
の日吉地区会議で地下壕保
存を中心とした分科会を持
つことを提案

日吉台地下壕問題調査団

日吉台地下壕保存の会

様

市広聴第4106号

平成5年7月6日



横浜市長 高 秀 秀 信

日吉台地下壕の史跡としての保存等について (回答)

さきに要請のありましたことについて、大変遅くなりましたが、次のとおり
お答えします。

日吉台地下壕は太平洋戦争時の遺構であり、その時代が新しく、現在のとこ
ろ文化庁は、このような新しい時代の遺構を史跡として認めていません。

したがって、本市としても、要望されている「史跡として永く保存し、多く
の人々が見学できるように整備する」ことは、困難と考えています。

この旨ご了承いただき、貴会の皆様によりしくお伝えください。

議事

一、七月六日高秀横浜市長より別記の回答が届いたが、今後の対策は？

*これを基にあらたな知恵をしばっていく

二、第二回戦争展について（渡辺先生など出席されたので合同の会となる）

*横浜市で開催するよう場所の確保につとめる

*実行委員会を設ける

*昨年のように協力団体に呼びかける

*登戸研究所の調査記録をプロの写真家の協力をえて完成させた。日吉台地下壕もこの方法を考えてはどうか。

第五回戦争展示会開催出口

八月二十五日一七時半

日吉地区センター

報告事項

一、七月一八日当会主催蟹ヶ谷地下壕見学会三〇名参加

二、七月二〇日ピークサイクルが一時に日吉駅到着、三〇分地下壕見学会二〇名余参加

三、七月三十一日～八月一日

第四回中国人・朝鮮人強制連行・強制労働を考える会

全国集會に寺田、岡上、足立が参加、三分間スピーチで発言、二〇〇名参加

四、八月四日港北区民会議運営委員会に喜田、橋本が出席、分科会設置は継続審議となった

五、八月九日慶応の小松理事（財務・人事・労務担当）と鮫島会長、寺田事務局長が会談、保存は個人的には賛成と前向きな姿勢が感じられた

六、八月一七日防衛庁戦史資料室にて調査、寺田、岡上、足立。一九日元海軍東京警備隊の兵士・足立長太郎氏

より聞き取り調査、寺田、小園、岡上、足立。

七、八月二二日豊島区郷土資料館主催地下壕見学会二八名参加

八、八月二四日写真家・小池氏によるパネル用地下壕写真撮影下見

第二回平和のために

の戦争展示展打合せ会

九月一六日一八時

大倉山記念館

議事決定事項のあらまし

*主催…平和のための戦争展

実行委員会

実施団体…日吉台地下壕保存の会

川崎市中原平和教育学級

記録編集委員会

その他

*実行委員会代表…寺田貞治、渡辺賢二

実行委員長…亀岡敦子

副実行委員長…馬養貞子

会計…白鶴邦子

書記…憲法の会より二名

*テーマ…本土決戦と日吉台地下壕

*場所…大倉山記念館

*日程…一九九四年二月八日（火）～一三日（日）

*賛同金…

大人個人…一〇〇〇円、

中学生…五〇〇円、

団体…二〇〇〇円、

資料代…五〇〇円

*内容…展示、講演、映画

*ブレイベント…

日吉台地下壕見学会

登戸研究所跡見学会など

お願い

会費未納の方は、至急ご送金ください。

郵便振込口座番号が新しくなりました。

横浜5174921です。